

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@maff.go.jp)



四国山の日

No.1152 2016年3月号

## 低コスト再造林についての現地検討会の開催

3月2日、高知県四万十町大正コビ穴山国有林において、四万十森林管理署管内の各森林組合や高知県須崎林業事務所、各市町村の林業担当者などの林業関係者が約50名参加して低コスト再造林についての現地検討会が開催されました。

【詳細は2頁】



検討会開会式



コンテナ苗植栽方法の説明



竹とリンロンテープを利用した植栽木保護

# 低コスト再造林についての 現地検討会の開催

〈四万十森林管理署〉



三月二日、「低コスト再造林について考える現地検討会」を当署の新植事業地、高知県四万十町大正コビ穴山国有林四〇八三林班で開催しました。

当日は、当署管内の森林組合や高知県須崎林業事務所、市町村の林業担当者など約五〇名が参加して行われました。

三月二日、「低コスト再造林について考える現地検討会」を開催している、再造林における低コスト化のためのコンテナ苗と植栽後の苗木を守るために四国森林管理局が取り組んでいるシカ食害防止対策を紹介し、検討するものでした。

午前中は、参加者にスギとヒノキのコンテナ苗の植栽を体験してもらい、その後、意見交換を行いました。参加者からは「苗木を山に置いておけるとのこと



インターシップ実習生によるコンテナ苗植付の様子

参加者のコンテナ苗に関する理解を深めてもらいました。

午後は、局森林技術・支援センターから、囲いわなや植栽木をニホンジカの食害から保護するシカクリップ、タケとリンロンテープを活用した保護方法などを紹介しました。参加者は、それぞれの方法を興味深く見学し、センターの職員に質問をしていました。

だがどのくらいの期間置いておけるのか。」「コンテナ苗は裸根苗と比べて持ち運びが大変ではないか。」「植え付け用の器具の価格などが適宜、回答を行い、

は。」など具体的な質問が出され、高知県種苗緑化協同組合やコンテナ苗の機材を扱っている業者の担当者など、森林管理の仕事を実地で経験してもらう良い機会となりました。

低コスト再造林とシカのす。これからもこうした検査防止はこれからの林 討会を積極的に開催し、地業にとって大きな課題である。地域の林業振興に貢献して行り、現場で様々な工夫を行 きたいと思えます。うことが重要と考えていま

## 平成二七年度国有林 モニター会議を開催

〈企画調整課〉



二月二六日、四国森林管 幅広い意見や要望等を伺う理局において、平成二七年 もので、本年度は四国4 度国有林モニター会議を開 県から一一名の国有林モ 催しました。ニターの方が出席し、毎

国有林モニターの取組 月、これまで当局から送付 は、「国民の森林」として した資料や二回の現地勉 の国有林の管理経営を推進 強会を通じて、国有林へ するため、国民の皆様から の評価と期待等について、

国有林モニター会議に参加されたモニターの皆様一年間ご苦労様でした



積極的な意見交換が行われ ました。

この会議でいただいた意見 について、これから 活

かしてまいりま 力を持っていることを知り 大変驚いた。近年は自然災 害が多いので治山事業が

(主な意見等)

○ 国有林がど もっと普及したら土砂崩れ のようなことを 等が減ると思った。

○ 機械化も進んでおり、 まだまだ国民に 林業でもっと女性が活躍で 知られていない きる職場となれば良いと思 ので、子供の頃 う。

○ HPや広報誌などは、 からアピールし イベントの結果報告が多 ていくことが必 要。く、参加機会に係る事前情 ○ ニホンジカ 報の発信が少ないので、も の食害につい う少し工夫してほしい。

でも防いでほしい。 ○ 育てた木材がうまく流

事業を初めて知った。非常 通、活用できる良い流れ ができることを期待してい

四国山の日賞特製看板



四国森林管理局「森林ふれあい館」(一月二九日) 三月三日)、岡山市の中国 四国農政局「消費者の部屋」(二月一五日)〜二六日)、高知県安芸郡北川村「中岡慎

「四国山の日賞受賞団体」の活動写真と森林ボランティアの木工作品を展示

〈技術普及課〉

太郎館」(三月三日)〜六日)の三箇所を会場に、平成二七年度「四国山の日賞」受賞団体の活動写真と森林ボランティア製作の木工作品等を展示しました。

森林ふれあい館では、特に受賞五団体のパネル写真に加え、実際に現場でニホンジカやイノシシ等の捕獲に使われている「くくりわな」を展示しました。

また、各会場では、今年度「四国山の日賞」をPR

するために、製作された特製看板(写真)を配置し、来場者の目を引けるような工夫も行いました。木工作品は、時期的なこともあり、森林ボランティアの作品、雛人形の展示を行いました。



四国山の日賞パネル展示(森林ふれあい館)

それぞれの会場では、来場記念として、当局名入りの『小枝などで作る「ひな人形」』冊子やひな人形カードなどをプレゼントしました。

中国四国農政局「消費者の部屋」における来場者の感想では、「今まで見た中で一番完成度高い、どんな方にも趣旨を訴求できるおもしろ味がある。」また、「ひな人形がかわいかった。もっと地域について知りたい。」等の感想がありました。

今後も、このように、「四国山の日賞」受賞団体の活動や四国森林管理局を広く

「消費者の部屋」での展示(中国四国農政局)



知って頂く展示会を実施し、森林・林業に関心を持つきっかけ作りを行っていきたく考えています。



学校の校庭での樹木学習



二月一日と一九日に、高知市立第六小学校の四年生、三四名を対象に樹木学習を行いました。初日は、針葉樹と広葉樹の違いについて学習しまし

たが、すでに良く知っている児童が多く、こちらからの質問にすぐ答えとてもスムーズに授業を進めることができました。その後、実際に山から採ってきたスギやヒノキ、ナギ・アラカシやヒイラギなど、合わせて一二種類の葉っぱを各班ごとに相談しながら針葉樹と広葉樹に分けてもらいました。毎回のことですが、ナギは広葉樹、ヒイラギは針葉樹と、どの班も期待を裏切ることなく間違ってくれました。また、タラヨウの葉の裏に「鉛筆で何でもい

らも心温まる思いでした。次に四班に分かれて、校庭の樹木の名前を学習しました。第六小学校は歴史が古く、校庭のアカマツ（樹齢百年超え）なども大変立派で、児童たちも自慢のようでした。そのせいか、どの児童も樹木に興味を持っていて、私たちの説明を熱心に聞いていました。説明する側も、クロマツとアカマツ、アカガシとアラカシ、ツバキとサザンカなど、似たような樹木が植えてあり、見比べながら違いの説

明を行うことができ、非常にやりやすく感じました。翌日は、前日学習した樹木に樹名板を取り付けるため、スギ板にそれぞれの樹木の特徴などを丁寧に描き、名札の裏には自分の名前も記念に書きました。残念ながら数人が違う木に樹名板を取り付けてしまっているハプニングもありましたが、学校に僕の木、私の木ができ、「毎日見に行くと笑顔で話してくれました。この児童たちが卒業してもなお、学校の思い出と共に末永く校庭の樹木を見守ってくれることを願いました。

第六小学校で『樹木学習』

〈技術普及課〉



いから書いてみよう」というと、日付と自分の名前を書く児童もいれば、お父さん、お母さんに日頃の感謝のメッセージを書く児童もいて、その優しさに、こちらも心温まる思いでした。

明を行うことができ、非常にやりやすく感じました。翌日は、前日学習した樹木に樹名板を取り付けるため、スギ板にそれぞれの樹木の特徴などを丁寧に描き、名札の裏には自分の名前も記念に書きました。残念ながら数人が違う木に樹名板を取り付けてしまっているハプニングもありましたが、学校に僕の木、私の木ができ、「毎日見に行くと笑顔で話してくれました。この児童たちが卒業してもなお、学校の思い出と共に末永く校庭の樹木を見守ってくれることを願いました。

樹木名板作製



タラヨウ（児童からのお父さんへのメッセージ）

# 各地のたより



## 四校で木工

### クラフト教室

〈ふれあい推進センター〉



二月二日に、高知県大月町立大月小学校で二年生二八名、二月一七日は、愛



「大月小学校、森林教室」

媛県松野町立松野南小学校で一〜六年生七名、二月二四日は、高知県宿毛市立松田川小学校で一〜二年生一七名、二月二九日は、高知県四万十市立東中筋小学校で三年生一六名を対象に木工クラフト教室を行いました。

大月小学校では、木材の種類や長所・短所、木材を上手に使う工夫などを学習しました。

松田川小学校と東中筋小学校では、「森林のはたらし」について学習しました。

その後、各小学校では、木工クラフト教室を開催し、小枝を使ったクマやフクロ

「松野南小学校、完成しました」



ウのストラップ等作りを行いました。はじめに作製方法を説明し児童達は、各キットを接着して色つけをし作品が完成しました。なお、大月小学校には、地元ケーブルテレビがこの様子を取材に来ていました。

松野南小学校では、二月一九日に同校で開かれた「ありがとう集会」(感謝祭)でこの一年間にお世話

になった地域の方々にお礼のプレゼント用として椅子を作製し、自分用には小枝を使ったカニやフクロウなどのキーホルダー等を製作をしました。

各学校の児童達は、夢中になって製作し、それぞれの作品を完成させました。児童達からは、「満足のいくものができたので宝物に



「松田川小学校、森林教室」

します。」「家族にプレゼントしたいと思います。」等と話してくれました。

今回の木工クラフト教室を通じて、木材に親しみ、木の持つ温もりを体感すると共に、森林の水を蓄える働きや土砂崩れを防止する働き、洪水や強風などから私達を守ってくれる防災の役割などの、「森林のはた



「東中筋小学校、森林教室」